

青くなつてブルブル顫へてゐた。

『今度何處で停車するんだ、飛び降りるよ俺は』

『裾野です』とか何とか言つて、車掌は客室の方へ慌てゝ逃げて行つた。

俺は早いもんだなと思つた。裾野と言へば富士山の麓だ。

佐賀からサ、たる蟻では廿世紀は掛かるだらう。

『俺は飛び降りるよ、眞言秘密の呪文で以て飛び降りれば何でもない』
客室に轟くやうな聲で俺は宣言した。

刑事が何時のまにか、次の客室まで来て立つて覗いてゐる。

俺は考へたのだ、此の儘東京へ行けば、何うしても精神病者にされるに決つてゐる。

それよりか何處かに暫らく身なりを變へ、身をヒソメるに如くはない。

『オイ、アガンボジョー』

俺は飛び降りるよ』

俺は先づ毛布を放つた。フハリと音がしない。バスケットを投げた。ガシヤンと音がした。